

2017年度 第2回幹事会 議事録

日時：2017年7月21日（金）13：15～15：00

場所：株式会社 堀場製作所 びわこ工場

E-HARBOR 棟9階 COMPASS HALL

出席者：36名

辻支部長より今年度の近畿分析技術研究懇話会の会長であった石原進介氏（京都電子工業（株））および元参与の岡正太郎氏（（株）島津製作所）ご逝去の報告があった。ご冥福を祈り、出席者全員により黙祷が捧げられた。

○ 支部役員について

石原氏（京都電子工業（株））のご逝去に伴う支部役員の変更および近畿分析技術研究懇話会会長の席が空席である旨の説明があった。今年度の役員選考委員会で次年度の近分懇会長候補者を選出後、すみやかに今年度から会長として務めて頂きたい旨、支部長より説明があった。

○ 前回幹事会議事録承認

前回議事録（資料No.2）を確認し、異論なく承認された。

1. 本部関係報告

(1)本部理事会報告

資料No.3に基づき、辻支部長から第2回・第3回理事会の議事について報告された。財務委員会では会計処理の事務処理合理化が進められていること、会員現況／入退会状況、バイオ分析研究懇談会設立申請が行われ、全会一致で承認されたことが説明された。また、分析化学討論会・年会開催担当が紹介された（近畿支部担当：2021年第70年会）。

(2)「ぶんせき」誌報告

床波庶務幹事（編集委員の田中氏の代理）より、資料 No.4 に基づき説明があった。近畿支部担当分の原稿執筆の自薦他薦を受け付けている。「とびら」（2017年11月締切分）については、新近分懇会長に依頼予定である。

(3)「Analytical Sciences」誌報告

編集委員の白井氏より、資料 No.5 に基づいた説明があった。Anal. Sci.誌として論文賞を設ける旨の提案があった。選考は全号の Hot Article を対象に投票で行い、受賞資格者は本会会員とすることにした。33巻から実施の予定である。

(4)「分析化学」編集委員会報告

編集委員の北隅氏より、資料 No.6 に基づき、説明があった。分析化学誌に掲載された論文のうちで優れていると認められた論文の英文要旨を Anal. Sci.誌に掲載するという相互掲載についての相互掲載論文選考内規が審議され、Anal. Sci.誌の 1 ページに 4 篇以内の要旨が掲載される予定である。また、12 号の討論会特集は近畿支部より多数の申し込みがあり、一冊にまとまる予定である。2018 年度の年間特集：「膜」とのことで、論文を受け付けている。

2. 第 77 回分析化学討論会開催報告

資料 No.7 に基づき、藤原実行委員長から第 77 回分析化学討論会開催報告について報告された。予約が少なく心配されたが、当日の参加登録が多くあり、最終的には予想を超える人数（登録参加者 725 名）となった。最終的な講演数は 418 件であり、昨年比べて 6 件増加した。主題討論は、関連する発表と時間が重なったこともあり、一部の会場で聴衆が少ない会場もあったが、ほとんどは多くの方々が参加され活発な議論がなされた。特に、No.7「分析化学における実験データの正しい扱い方」は最大徴収数が 110 名であり、盛況であった。ポスター発表では、スペースを十分とってポスターボードを配置していたが、多くの方が会場に来られたため移動が困難なところも生じた。産業界 R&D 紹介ポスターは、若手ポスターの後で同じポスターボードを用いて行ったため、ポスターを急いで貼り替える必要があった。ランチョンセミナーは 27 日に 4 件、28 日に 1 件行われたが、若手ポスター発表の時間と重なったため、27 日の 2 階の 2 会場にはかなりの空きが見られた。両日の件数の配分とポスター発表の時間との調整については、今後検討の余地がある。クロークは、27 日に 50 件、28 日に 136 件の利用があり、トラブルは全くなかった。天候にも恵まれて大きな問題は起こらず、無事に 2 日間の討論会を終えることができた。

3. 2017 年度 支部事業 報告・計画

床波庶務幹事より、資料 No.8 に基づき、本年度においてすでに実施された事業と今後実施予定の事業計画が報告され、承認された。

4. 2017 年度 支部会計 報告・計画

鈴江会計幹事から、資料 No.9 に基づき、2017 年 6 月 30 日現在の予算執行状況についての報告がされ、承認された。

5. 各事業・WG 報告

(1)ぶんせき講習会

資料10に基づき、久保埜委員長から本年度の講習会の終了報告および今後の予定について報告があった。発展編の当日スケジュール（講義・実習時間の配分）が変更されたことが説明された。また、ぶんせき誌への会告～申込切までの期間が2週間と短いため、会告を早めることが検討されているとの報告があった。講習会の申し込みについて、電子メール申込からHP申込へ移行し自動返信システムを導入（次年度以降）することについて審議し、承認された。HP移行後もしばらくメール/FAX申込を残す予定である。

(2)支部講演会 WG

責任者の矢嶋氏より、資料 No.11 に基づき、2017 年 7 月 21 日に第 2 回支部講演会が実施されること、今後 12 月 8 日に第 3 回支部講演会、4 月に次年度の第 1 回支部講演会が企画されていることが説明され、了承された。

(3)提案公募セミナーWG

責任者の高山氏より、資料 No.12 に基づき、2017 年度第 1 回提案公募型セミナーの開催報告が行われ、了承された。また、積極的な企画提案が呼びかけられた。

(4)ホームページ&分近ニュース WG

辻支部長(責任者の宇田氏の代理)より、資料 No.13 に基づき説明があった。「ぶんきんニュース40号」が4月に配信されたことと、41号の配信予定(9月末)が報告された。

(5)若手セミナーWG

辻支部長(責任者の岩月氏の代理)より、説明があった。8/7~8/8 に予定されている第 11 回平成夏季セミナーの参加申込状況(参加予定人数:77名(一般:16名、学生:61名)、ポスター申込件数:55件)が報告された。

6. その他

(1)2017 年度学会賞等各賞受賞者について

資料No.14に基づき、辻支部長から近畿支部所属の受賞者が紹介された。

(2)2017 年度第 1 回合同事務局運営委員会関係

資料No.15に基づき、辻支部長から第1回合同事務局運営委員会の議事について報告された。次年度に向けては、今年度と同じ分担率を維持しつつ、実際の分担金額については、減額を目指して、第2回合同事務局運営委員会(8月末)に臨む方針が支部長より説明され、了承された。

(3)学会賞等各賞候補者推薦依頼の件

辻支部長からぶんせき誌7月号に掲載の各賞の規程に基づいた推薦の依頼があった。ただし、ぶんせき誌7月号に掲載の奨励賞候補者推薦に関しての奨励賞規程が改定前の規定が誤って掲載されているので注意すること、および、新たに女性 Analyst 賞の推薦を受け付ける旨、支部長より指摘があった。

(4)近畿支部65周年記念事業について

辻支部長から、シンポジウム(2018年10月or11月)が提案され、次回の幹事会までに大枠を決定する予定であるとの説明があった。

(5)協賛事業

資料 No.15 に基づき、辻支部長から日本分析化学会近畿支部が後援・協賛する事業が報告され、異議なく了承された。

(6)近畿分析技術研究懇話会会計

会計幹事の堀田氏から、2017年6月30日現在で法人会員から300,000円、個人会員から35,000円の収入があったことが報告された。

以 上